

【不祥事根絶に向けた本校の決意】（行動基準）

使命	私たちは、夢を語り、挑戦する生徒を育てます。
遵法	私たちは、法令を遵守します。
公正	私たちは、不祥事を許しません。
自覚	私たちは、生徒や親の願いを受けとめます。

不祥事根絶のための行動計画

広島県立熊野高等学校  
作成責任者 校長 神田 浩二

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○服務研修が、管理職からの一方的なものになりがちである。</li> <li>○研修機会は多いものの、その会の目的や参加者意識が希薄になりがちである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○服務研修の方法や内容等を見直し、研修効果が実感できるようにする。</li> <li>○参加者皆が研修目的を強く自覚し、参加者意識により緊張感を持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不祥事防止委員会において次回の研修内容・実施者・実施方法等について十分研修をする。</li> <li>○学年会単位の研修会実施も取り入れる。</li> <li>○研修年間計画と学期ごとの目標を明示し、研修参加における気持ちの準備を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○服務研修についての職員アンケートを、中間評価・年度末評価で実施する。</li> <li>○不祥事防止員会での事後評価や改善点を研修会実施ごとに確認する。</li> </ul>
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不祥事を許さない学校文化の構築意欲において、職員間に偏りがある。</li> <li>○職務遂行姿勢において、自己を振り返り改善する意識が薄い者がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校として、一体化した不祥事防止意識を醸成する。</li> <li>○教科内、分掌内等でのコミュニケーションを今以上に深めるようにする。</li> <li>○自分の職務姿勢を客体化して見る機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年会・分掌会・教科会に適宜、管理職がオブザーバーとして参加し、事後に主任を指導する。</li> <li>○学校関係者等から不祥事根絶のための意見を積極的に求める。</li> <li>○改善意識が乏しい職員に対し、手本を例示する等、個別に管理職が指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○月に1回、校務運営会議で不祥事根絶に係る情報交換を行う。</li> <li>○ヒヤリ・ハット事例の記録と校内振り返りを、各学期末に行う。</li> </ul>
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「体罰・セクシャルハラスメント相談窓口」の認知度が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒や保護者から相談しやすい体制をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学期に生徒を通じて案内文を家庭に持ち帰らせる。</li> <li>○校内全教室に案内文を掲示する。</li> <li>○学期末懇談会において保護者から意見を聴取する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学期に相談窓口の認知度を調査する。</li> <li>○聴取意見を集約・記録するとともに、校内運営に生かし、各学期始めに職員で研修する。</li> </ul>